

農業と試験場

静 閑 堂 主 人

日本の農業関係の試験研究機関は為政者はもとより一般から軽視されているような気がしてならない。これは私のひがみかも知れないが、予算にしても、人員にしても、施設内容にしても依然として貧弱なのは慨嘆に堪えない。陰気な建物、その中を包むつめたい空気、時代がかった器具機械の並んでいる部屋、寒々とした圃場が通例的な試験場だが、一方目を転ずると華やかなアドバルーンを上げての行政がマスコミによって一段の精彩を加えて居り、これに農民はひとしく眩惑されて右往左往している。これが日本農業の姿であろう。政府の提唱する所得倍増、農村と都市との所得格差の低減の波に乗って、所謂もうかる農業経営方式が色々の形で生れたり又消えたりしている。これ等の現象をみていると、どうも基礎理念が忘却されているように見受けられる。畜産にしたってそう。

共同化勿論結構、近代的な流通施設結構、消費拡大結構だが、畜産学の基礎理念が新しい農民層には欠除しているように思えてならない。家畜のもつ本質的な特質を把握して、それを積みかさねての多頭飼育なり、経営改善ならまあ話は解るのだが。

蒜山に酪農大学校が出来そうだが、スキーやハイキングさてはレジャー活用のもろもろの技能を体得せしめるのも結構だが、一つ畜産学の基礎講義を権威者からゆっくり聞かせて戴きたいものと念じている。

世は畜産物とか収益性の高い作目の増産を緊要としている。そこで行政施策が先行するのは勿論うなずけるけれども、試験研究機関の運営が現在のままで果たしてよいであろうか。否寧ろ、事項によっては試験研究が基礎となり又併行しなければならない。ビートに於て特にその感を強くする。どうです、1億円でビート試験場を作って、育種等の基礎問題を解決しては如何ですか。

貧弱な試験場では満足な結果は生れ難い。それなのに、その速席結果（失礼な言葉だが）をよい方に解釈して施策を進める所に問題がある。試験研究に

はみんなが力を合せて、ゆっくり落ちついてやり、白黒の結果を勇気を以って公表すべきであろう。

外国を訪れた人は大学と試験場が極めて密接な関係をもち、教育普及が先走った行政に支配されていない事を知っている。更に試験場は農業以外の試験場と密接な関連を保ちながら、思い切った予算で研究が進められているのを知っている。

はるかかなたに置いてけぼりにされ勝ちな大学や農業試験場の姿を私共は現実に日本に於て見るとき、農村の振興もくそもあったものではないような気がしてならない。

農業関係予算が本年はこの位増加したと云われる中で、試験研究の予算は相いも変わらず、細い道を今日もさみしく歩んで行く。

ああ変てこな農村指導行政なるかな。